

台湾におけるエネルギー問題に最先端のソリューションを提供するJERAエナジー台湾

JERAエナジー台湾は、2003年から取り組んでいる台湾でのIPP事業のほかに、昨年洋上風力発電事業としてフォルモサ1への出資を決定した。今後も台湾のエネルギー政策に合わせてエネルギー関連の強力なパートナーとして最先端のソリューションを提供していきたいとの考えである。今回は、JERAエナジー台湾の台湾での事業内容や今後の展望について、田村董事長を訪ねお話を伺った。



董事長の田村 晃一氏

—JERAの設立背景と海外事業

JERAの設立は2015年4月で、当初は東京電力と中部電力の燃料事業、海外事業の新規開発窓口を一本化することから始まりました。その後、段階的に統合を進め、2016年7月に海外アセットが事業承継され、2019年4月に国内アセットが統合し、完全統合を果たしました。事業立ち上げ当初に計画した、燃料の上流・調達から発電、電力・ガスの卸販売に至る一連のバリューチェーンを確立しています。

そもそもは東日本大震災が起きてから、電力会社の在り方が検討される中で、再編が検討されました。エネルギー業界において、巨大な海外企業と戦っていける国際競争力のあるグローバルなエネルギー企業となるためには、規模を大きくする必要があります。規模を拡大することでLNGの調達力が高まることが強みの一つとなります。LNG取扱量は現在3500万トンで、発電費用の大部分を占めるものが燃料費であるため、いかに規模を活かして調達を行うかは重要な要素となります。また、上流開発・燃料調達から輸送、受入・貯蔵、発電、販売という一連のバリューチェーンの中での最適化を行うことも重視されました。様々な国からの調達方法や契約条件、電力消費の季節変動などを考えた中でいかにバリューチェーン全体を最適化し、費用を下げるかということが重要となります。JERAは調達から販売

までの巨大なエネルギーの流れをトレーディングも活用しながら一体的に最適化することで、経済的かつ弾力的な運用を実現しています。

海外事業に関しては、JERAを設立する以前の2000年前後から、東京電力と中部電力はそれぞれで投資を進めてまいりました。電力の自由化や日本の人口減少を見据えた国内のエネルギー需要の変化、省エネの進展などがその背景にあります。国内での大きな需要拡大が期待しにくい中、海外での事業投資の重要性が増していました。海外事業としてはIPP事業を中心に、LNGインフラの開発、燃料トレーディング事業の拡大、再生可能エネルギー事業の拡大などを行っています。

—台湾での事業内容

台湾では東京電力の時代からIPP事業を進めてきています。2004年3月に運転を開始した彰濱・豊徳の2プロジェクトに加え、2009年6月から星元プロジェクトも運転を開始しています。発電方式には、当社が多くのノウハウと実績を保有するコンバインドサイクルガスタービン発電を採用しています。これまで台湾に拠点はありませんでした。発電所に日本人技術者を常駐させ、日本のノウハウを活用してきました。また、台湾での発電所の建設・運営で得たノウハウを日本国内に還流することも

日本企業から見た台湾

進めてきました。

海外は大きく3つのリージョンがあります。マーチャントで行っている北米リージョン、上流がメインとなるオーストラリアリージョン、火力を中心とする発電事業が主なアジアリージョンです。ガスtoパワーがメインとなるアジアはシンガポール拠点を強化してきました。そして今年、2019年6月に台湾の事業強化のために現地法人を設立するとともに事務所を開設しました。台湾は、エネルギー政策として、脱原子力発電を掲げ再生可能エネルギーを強化すると発表しています。石炭火力発電を減らしていくという世界的なトレンドがある中で、ガス火力発電も増えてくるのではないかと予想しました。再生可能エネルギーの面でも台湾で洋上風力発電や太陽光発電などが増えてくるということが計画されていたため、台湾での事業強化を決めました。

洋上風力発電事業として、苗栗県の沖合に位置するフォルモサ1洋上風力発電事業への出資参加を決めています。フォルモサ1は台湾初の洋上風力として4MW×2基はすでに17年4月に商業運転を開始しており、残る6MW×20基のセカンドフェーズの運転開始に向けて建設工事が進んでいます。

2018年の夏にフォルモサ1への出資が合意できたことを契機に、社内で台湾拠点の必要性を検討し、拠点設立を決めました。もともと人を派遣していた3つのIPP事業を束ねる拠点としての位置づけもあります。再生可能エネルギーの事業チャンスの中で、大規模化が可能となる洋上風力に特に力を入れているのですが、これまで国内を含めて洋上風力開発についてのノウハウを多く持っていないため、台湾でのプロジェクトを通じてノウハウを積んでいきたいと考えています。フォルモサ1のプロジェクトには4名の社員も派遣しています。

—今後の展望について

台湾に拠点を設立してまだ2か月ほどですが、台湾の関係者と会う中でプロジェクトを肌感覚で感じることができるようになったとともに、スピード感を持った対応ができるようになったと感じています。同時に事業開発をしていくうえでの大変さや時間のかかる部分があることへの理解も深まりました。新規事業も含めて、これから台湾の案件をどう絞りこんで深く入っていくかを考

えていくフェーズにあります。台湾企業、日系商社を含め、様々な関係者と一緒に考えていく中で、スピード感をもちつつ、win-winの関係の中で事業を進めていきたいと考えています。JERAエナジー台湾のミッションは、台湾におけるエネルギー問題に最先端のソリューションを提供するというものであり、これを実現していきたいという思いです。

—ありがとうございました

JERAエナジー台湾の基本データ

会社名	台灣捷熱能源股份有限公司 (JERAエナジー台湾)
代表 董事長	田村 晃一
設立	2019年
資本金	50,000,000 (NTD)
事業内容	電気事業、ガス事業

注)2019年7月の情報による
出所)公開資料及びヒアリングよりNRI整理